

日本原子力標準委員会 リスク専門部会 PRA品質確保分科会  
第14回会合議事録

日時：2016年12月22日（木）9:30～11:30

場所：東京大学 工学部8号館226号室（大会議室）

出席者（敬称略）

委員：越塚主査（東大），成宮副主査（関電），糸井（東大），岩谷（中電），  
浦野（原電），岡野（JAEA），喜多（東電），桐本（電中研），倉本（NEL），  
曾根田（日立 GE），田口代理（TEPSYS，日高），田中（MHI），  
藤井代理（東芝，小森），村田（JANSI） 14名出席  
常時参加者：野村（関電），東山候補（NEL） 2名出席

配付資料：

RK4SC14-1：第13回PRA品質確保分科会議事録案

RK4SC14-2：人事について

RK4SC14-3：PRA品質確保分科会 スケジュール案

RK4SC14-4：PRA品質確保分科会 分担案

RK4SC14-5：JEAC4111-2013 公衆審査版：7.6抜粋

RK4SC14-6：各PRA標準における計算コードの扱いに係る記載

RK4SC14-7：ASME/ANS標準 PRAコンフィギュレーションコントロールの記載

RK4SC14-8：共通用語標準の英訳案

RK4SC14-9：リスク情報活用標準（抜粋）

RK4SC14-10：標準の概要（英語版）の確認について

RK4SC14-11：リスク専門部会5ヵ年計画

参考資料：

RK4SC14-参考1：PRA品質確保分科会名簿

議事：

1. 定足数の確認，配布資料の確認（RK4SC14-0）

委員 14名中 14名が出席しており，本会議が議決に必要な定足数を満足していることが確認された。

また，議事次第（RK4SC14-0）に基づき，配布資料の確認が行われた。

2. 前回議事録確認（RK4SC14-1）

成宮副主査より，RK4SC14-1に基づき，第13回分科会の内容確認が行われた。委員の所属組織名の誤記を修正し，議事録を確定した。

### 3. 人事について (RK4SC14-2)

常時参加者の登録 (1名) について承認された。また、常時参加者の登録解除 (1名) について報告があった。

なお、幹事の選出については、引き続き調整することとなった。

### 4. 検討スケジュール案, 作業分担案 (RK4SC14-3, RK4SC14-4)

次回分科会では、専門部会状況報告 (2/22) に向けて、リスク情報活用標準取込検討の DRAFT 版, V&V・Configuration Control 検討の作業状況, および共通用語標準の英訳確認・修正の作業状況を持ち寄ることとなった。

作業チームは RK4SC14-4 のとおりであるが、情報活用標準取込検討の作業者にメーカーの3名を含めることとなった。進捗に応じて、チームは適宜見直されることとなった。

### 5. リスク情報活用標準取込検討について (RK4SC14-9)

リスク情報活用標準の PRA 品質確保標準への取込について議論した。

Q:統合的安全性向上分科会との関係は？

A:統合的安全性向上分科会 (RIDM 標準) では、全体的な意思決定プロセスについて規定し (リスク評価は一要素), 本分科会 (品質確保標準) では、リスク評価に対する品質確保について規定することとなるため、品質確保標準は RIDM 標準から引用される形になるものとする。判定基準の図はどちらが規定するのか、といった調整はあるが、本分科会においては、リスク情報活用標準 (RK4SC14-9) の本文 (p.6~9) から品質確保標準に抽出する内容の議論がメインになる。今後、検討項目の調整が見込まれるため、統合的安全性向上分科会とは同調した方が良い。

Q:安全目標・性能目標の取扱いは？

A:今現在の数値・意味合いをもとにして、議論を進めることを考えている。

C:規制対応 (検査制度見直しにおける ROP も含む) の際に品質確保標準が使用される場合は、その旨が事業者から規制側に説明されることで問題ないと考えられる。

C:Graded Approach の取込みに関しても、検討の必要がある。

### 6. V&V・Configuration Control 検討について (RK4SC14-5, RK4SC14-6, RK4SC14-7)

V&V・Configuration Control の PRA 品質確保標準への規定化に係る議論を実施した。

C:レベル 2 標準に記載の「妥当性が確認された解析モデル」とは、JEAC にて規定された V&V (コンピュータソフトウェア自体) ではなく、原子力学会で新たに規定された V&V ガイドの内容を指すものと考えられる。

Q:PRA におけるコンフィギュレーションコントロールとは？

A:PRA モデルとプラント状態とが整合するよう、未対応の箇所の明確化も含め、管理することを示す。今まで、本内容は陽に記載されていなかったもので、RK4SC14-7 は新たに追

加すべきかの検討材料である。

7. 共通用語標準の英訳確認・修正について (RK4SC14-8, RK4SC14-10)

共通用語標準の英訳案の紹介があり、分科会における作業について確認した。

Q:今の国内標準は、基本的に ASME/ANS 標準を和訳したものなのでは？そうであれば、国内標準の英訳作業は、原文に戻すだけの作業となる。

A:ASME/ANS 標準をベースとはしているものの、国内への適用が難しい要求事項もあり、日米の標準は全く同じでない。英訳一式は別途実施される予定であり、本分科会においては、作成された国内標準の英訳一式と原文間の、表現の整合をチェックする必要がある。

8. リスク専門部会 5 年計画について (RK4SC14-11)

PRA 品質確保分科会のスケジュールとしては、RK4SC14-3 に合わせて回答することとなった。また、5 年計画の中で予算確保が必要である事項として、日中韓会合、英訳の外注、ASME/ANS 標準の購入を挙げた旨が報告された。

9. その他 (次回日程等)

次回分科会は、2/6 (月) 10:00～、東大にて開催することとなった。また、本分科会以降の議事録作成担当は RK4SC14-参考 1 のとおりとなった。

以上